

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成24年1月12日 (2012.1.12)

【公開番号】特開2010-130487(P2010-130487A)

【公開日】平成22年6月10日 (2010.6.10)

【年通号数】公開・登録公報2010-023

【出願番号】特願2008-304598(P2008-304598)

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

G 1 0 L 15/00 (2006.01)

G 1 0 L 15/20 (2006.01)

G 1 0 L 15/28 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/225 F

G 1 0 L 15/00 2 0 0 G

G 1 0 L 15/20 3 6 0 Z

G 1 0 L 15/28 5 0 0

G 1 0 L 15/28 2 3 0 J

【手続補正書】

【提出日】平成23年11月22日 (2011.11.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ファインダとディスプレイとを備える撮像装置であって、

前記ファインダに画像を表示する表示モードと、前記ディスプレイに画像を表示する表示モードとを切替える切替え手段と、

前記ファインダに画像を表示している場合、音声入力の処理を接話用のモードに設定し、前記ディスプレイに画像を表示している場合、音声入力の処理を非接話用のモードに設定する設定手段と、

設定された音声入力のモードに従って、予め設定された制御コマンドを音声入力する入力手段とを備える撮像装置。

【請求項 2】

前記接話用の入力モードは、前記非接話用の入力モードよりも入力音量が大きくなるように設定することを特徴とする請求項 1 に記載の撮像装置。

【請求項 3】

更に、前記ファインダに画像を表示している場合、音声認識の処理を接話用のモードに決定し、前記ディスプレイに画像を表示している場合、音声認識の処理を非接話用のモードに決定する決定手段と、

決定された音声認識のモードに従って、音声入力された制御コマンドを音声認識する音声認識手段とを備える請求項 1 または請求項 2 に記載の撮像装置。

【請求項 4】

前記非接話用の認識モードは、前記接話用の認識モードよりも雑音が多い環境に適した設定であることを特徴とする請求項 3 に記載の撮像装置。

【請求項 5】

更に、前記ファインダに画像を表示している場合に、撮像モードであるか再生モードであるか判断する判断手段と、

入力された制御コマンドに応じて、予め設定された撮像または再生に関する制御を実行する制御手段とを備え、

前記決定手段は、前記撮像モードである場合、非接話用のモードを非接話撮像用のモードに決定し、前記再生モードである場合、非接話用のモードを非接話再生用のモードに決定することを特徴とする請求項 3 または請求項 4 に記載の撮像装置。

【請求項 6】

非接話撮像用のモードでは、再生に関する制御コマンドが音声認識された場合には予め設定された制御を実行せず、非接話再生用のモードでは、撮像に関する制御コマンドが音声認識された場合には予め設定された制御を実行しないことを特徴とする請求項 5 に記載の撮像装置。

【請求項 7】

ファインダとディスプレイとを備える撮像装置に実行させる情報処理方法であって、切替え手段が、前記ファインダに画像を表示する表示モードと、前記ディスプレイに画像を表示する表示モードとを切替える切替え工程と、

設定手段が、前記ファインダに画像を表示している場合、音声入力の処理を接話用のモードに設定し、前記ディスプレイに画像を表示している場合、音声入力の処理を非接話用のモードに設定する設定工程と、

入力手段が、設定された音声入力のモードに従って、予め設定された制御コマンドを音声入力する入力工程とを有する情報処理方法。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の情報処理方法をコンピュータに実行されるためのプログラム。

【請求項 9】

請求項 8 に記載のプログラムを記憶した記憶媒体。